

宇都宮市立今泉小学校第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.7	70.8	69.5
	生命・地球	75.8	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	74.7	72.8	71.7
	観察・実験の技能	74.4	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	74.2	72.3	71.4

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校平均正答率が71.7%で、県の平均を2.2ポイント、市の平均を0.9ポイント上回っている。</p> <p>○「電気のはたらき」では、県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>○「空気と水の性質」や「金属、水、空気と温度」の設問では、概ね県や市の平均を上回っているが、一部下回っているものがある。</p> <p>●「空気と水の性質」や「金属、水、空気と温度」では、空気の圧縮の設問で、県や市の平均を下回った。</p>	<p>・「空気と水の性質」についての習熟が十分になされていない。実験の際には結果についての考察をすることで理解が確実にできるようにする。</p> <p>・乾電池の直列つなぎの設問では県や市の平均を上回っているものの正答率は高くないので、実験したことを生かしてノートやプリント等で学習内容の定着を図っていく。</p>
生命・地球	<p>○本校平均正答率が75.8%で、県の平均を5.0ポイント、市の平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>○「季節と生物」や「月と星」の設問では、正答率が高く理解が定着していると考えられる。</p> <p>●「人の体のつくりと運動」の設問では、県や市を大きく上回っているが、正答率が低く十分に理解しているとはいえない。</p>	<p>・月や星の方角や動きについての理解はなされているが、1ヶ月後の月の形が分からない児童が多かった。実験や観察から得た情報を整理して、学習内容の理解を確実にできるような習慣を図っていきたい。</p> <p>・腕を曲げたり伸ばしたりしたときの筋肉のようすが分からなかったり、人の背中がまるく曲げられる理由を説明することができなかつたりする児童がやや多い。日常的に自分の体に興味をもち、なぜそうなるのか、という関心をもつことができるように体験活動を通して意欲を高め、人の体のつくりについての理解を深めさせる。</p>